

第5・6・7回 合同会議

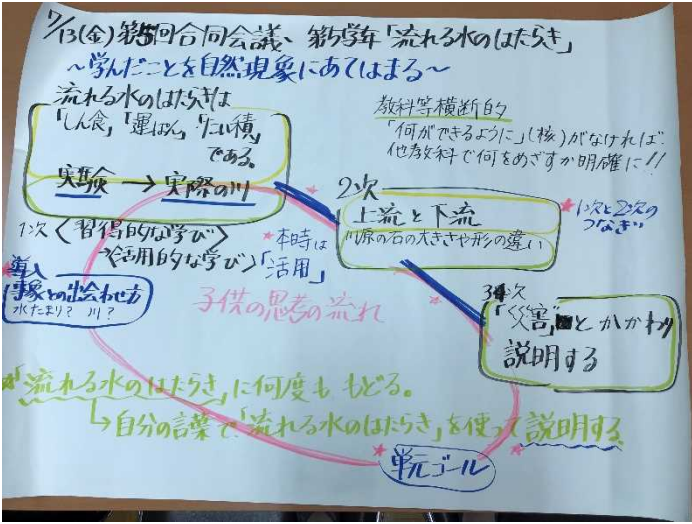
- 1 日時
  - 第5回 平成30年7月13日（金） 15時00分～16時30分
  - 第6回 平成30年7月30日（月） 9時00分～12時00分
  - 第7回 平成30年8月 6日（月） 9時00分～11時30分
- 2 場所
  - 旭川市立朝日小学校 図書室，理科室
- 3 参加者
  - 旭川市立朝日小学校 木下 俊吾，三浦 一路，福嶋 顕勝，櫻井 啓子，宮腰 唯導，石塚 泰鑑，
  - 旭川市立知新小学校 増田 展明
  - 旭川市立新町小学校 伊月真由美
  - 旭川市立中央中学校 成田麻友子，三上 貴也
  - 小樽市立菁園中学校 山本 俊次
  - 帯広市立柏小学校 森谷 栄介

4 内容

9月10日（月）に本校で提案される上川研修センター研究授業（第5年理科「流れる水のはたらき」）について、授業を構想し、指導案検討を行った。

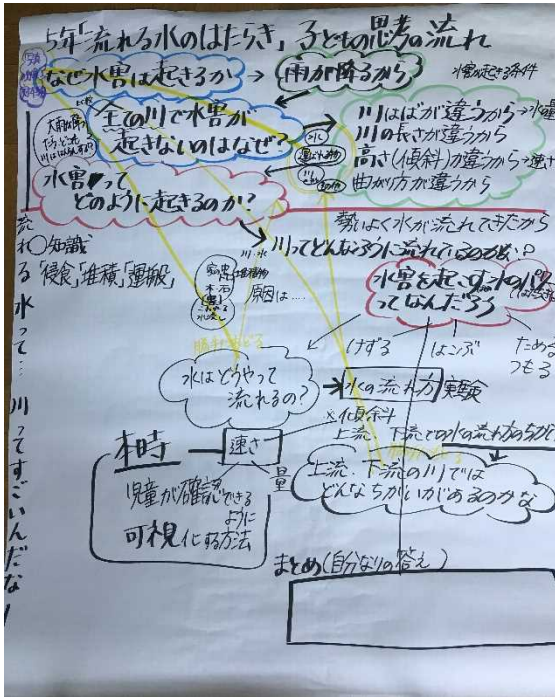
(1) 全体構想（7月13日）

- ① 小学校学習指導要領を基に，理科「地球」を柱とした内容の系統性を踏まえ，本単元で育成する資質・能力を確認した。
- ② 他教科・領域，自然や生活などとの関連性を整理した。
- ③ 子供の思考の流れを重視し，ゴールの姿を明確にする単元を構成することを確認した。
- ④ 地域の特性を生かす。旭川市が大雨による洪水，川の氾濫などの被害に遭ったことから，「流れる水のはたらき」で学習したことを，実際の自然事象や日常生活にあてはめて考える学習とする。
- ⑤ 児童の実態を的確に捉えて学習を推進する。事前アンケートや平成30年度全国学力・学習状況調査の全国や本校の結果から，児童への定着が難しい傾向が見られた学習内容について，手立てを明確にする。



事前アンケートや平成30年度全国学力・学習状況調査の全国や本校の結果から，児童への定着が難しい傾向が見られた学習内容について，手立てを明確にする。

## (2) 子供の思考の流れに沿った課題解決学習（7月30日）



「水害を起こすほどの、流れる水のはたらきってなんだろう」という学習課題につながるまでの子供の思考の流れを丁寧に考えていった。

事象に出会わせただけでは、子供たちが課題意識をもつことは難しく、そこに意図的な教師のかかりがあるからこそ、単元を通した課題意識がもてるようになる。

授業本時は11時間目にあたる場面を提案するが、単元の課題設定、単元計画づくりにあたる1・2時間目についての議論が白熱した。



子供のなぜ? どうして? の思いを学習課題につなげるために教師のはたらきかけが大切です。



## (3) 児童の予想に基づく実験計画を実現させる、適切な実験器具の開発（8月6日）

理科は、実験や観察などを核として思考を深めていく特性をもっている。実験結果を通して妥当性や普遍性を突き詰めて考えていくため、実験は重要な意味をもつ。そのため、実験器具は児童が扱いやすいか、正確な結果を導くことができるものかなど、事前準備が必要である。

また、子供の思考の流れをつなぐことができる実験器具でなければならないことも確認をした。

理科に限らず、単元で使用する教材教具、学習シートなどを学習に入る前に準備することが重要である。

